

# 知的障害特別支援学校教育課程編成に関する一考察

— 学習指導要領にみる日課・予定の取り扱いを中心として —

日比 暁\*・沖中紀男\*\*・坂本 裕\*\*

## 緒言

### 平成21年版特別支援学校学習指導要領にみる知的障害教育の重点

平成21年版特別支援学校学習指導要領の総則「内容の取り扱いに関する共通事項」に、領域等を合わせた指導、すなわち、領域・教科を合わせた指導に関する記述が初めて加えられた。このことは、生活単元学習など領域・教科を合わせた指導が知的障害教育の原則であることが確認されたことを意味する。また、平成21年版特別支援学校学習指導要領解説総則等（幼稚園・小学部・中学部）ならびに同（高等部編）でも、平成10年版特別支援学校学習指導要領解説よりも領域・教科を合わせた指導に関する記述内容が増やされ、その掲載位置も教科別指導等より前の冒頭部分に復帰した。さらに、「各教科等を合わせて指導することが効果的であることから、従前、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習などとして実践され」とされ、知的障害のある児童生徒の教育の基本形であることや、その効果や優先性が示された。

### 知的障害教育における喫緊の課題

知的障害教育においては、戦後一貫して、子どもが主体的に取り組み豊かな生活をおくる生活中心の教育を基本原則とし、その具現化を教育課程編成としてきた（全国特別支援学校知的障害教育校長会、2010）。こうした構えは先述したように平成21年版特別支援学校学習指導要領においても確認され、更なる推進が求められている。こうした中でも、平成21年版特別支援学校

学習指導要領解説総則等（幼稚園・小学部・中学部）ならびに同（高等部編）に「見通しをもって行動できるよう」「日課や学習環境をわかりやすくし」が新たに示され、より一層見通しを持った活動を重視することが示されるなど、「日課」及び「予定」を整えることが喫緊の課題のひとつとされている。「日課」とは学校生活で行われる毎日決められた授業等、「予定」は将来、学校生活等で行われる事柄とされ、児童生徒が日課や予定を理解し、見通しをもって主体的に活動することを大切にすることが求められている。

このことにかかわって、平成21年版特別支援学校学習指導要領解説総則等（高等部編）において、高等部段階でも「日課」や「予定」を重要視し、見通しのもてる「まとまりのある学校生活」が重要視すべきとされた。このことから、高等部段階での生徒が「規則的でまとまりのある学校生活」の中で主体的に取り組むために、「日課」や「予定」に配慮した教育課程の編成が喫緊の課題のひとつとなっている。

具体的な教育課程の編成においては、「選定した指導内容を適切に組み合わせ、生徒の学習上の特性等を考慮しながら、単元等としてまとめ上げて配列することが重要である」とされ、その際、「生徒の実態等を考慮して、実際の生活に結び付くように指導内容を組織し、指導計画を作成することが大切である」とされ、『生徒の学習上の特性等を考慮した実際の生活に結び付く指導計画の作成』を行う必要が強く求められた。また、「生活に結びついた効果的な指導を行う」と改められており、『生徒が見通しをもって、意欲的に学習活動に取り組むことができるように配慮した指導計画』とすることが課題とされている。そして、新たに「生徒が見通しをもって、意欲的に学習活動に取り組むことができるよう

\* 岐阜県立大垣特別支援学校

\*\* 岐阜大学大学院教育学研究科

にするために、生徒が分かりやすいように活動の予定を示したり、活動を一定期間、繰り返したりするなどの工夫をする」ことが課題とされている。加えて、活動内容、すなわち、教育内容は「広範囲に各教科の内容が取り扱う」ことが求められており、「予定」、すなわち、単元計画の検討も課題となっている。

### 本研究の目的

これまで述べてきたように、平成21年版特別支援学校学習指導要領において、知的障害のある児童生徒の教育課程編成においては、幼児児童生徒が主体性に取り組む姿を願い、「日課」や「予定」を整えることが、これまで以上に課題となっている。

そこで、本稿では、昭和37年から平成21年までに告示された特別支援学校（養護学校（精神薄弱））学習指導要領解説及び各手引にて、知的障害教育における「日課」ならびに「予定」の取り扱いがどのように示されてきたのかを分析し、知的障害教育の教育課程編成における「日課」、「予定」の指針を明らかにする。

## 方 法

### 資料

- ・昭和37年版から平成21年版の各特別支援学校（養護学校（精神薄弱））学習指導要領解説計8冊
- ・各手引き 計7冊（作業学習（含、改訂版）、生活単元学習、日常生活の指導（含、改訂版）、遊びの指導、精神薄弱養護学校高等部）

### 方法

各学習指導要領解説、手引きの関連記述を分析する。

## 結 果

### 日課

各学習指導要領解説、手引きにおける「日課」に関する記述を分析した結果をTable 1に示した。

昭和37年度版解説では「1時間事に変化し、

展開させていけば、学校生活は新鮮さもあり、気分転換にもなって、適当な学習生活といえるであろうが、精神薄弱者にとっては、まず教科中心の学習というものに抵抗があり、新しい場面への適応性が弱く、次々と展開されていく刺激配置への対処は困難である」（P34, L14）と知的障害のある児童生徒に対しての「日課」への配慮の必要性が示された。

そして、昭和45年版解説では「生活の内容の取り扱いにおいては、特に、学習活動の実生活化が強調されなければならない。学習活動の実生活化とは学習活動を児童の目的的な活動で組織し、それを実生活的状況下で展開する」（P60, L17）と「日課」を整える際に、実生活的状況下で展開するとの方向性が示された。

さらに、昭和55年度版・平成元年度版解説からは「③1日、及び1週間の学校生活のまとまりと流れを考慮して、週時程（日課）を作成する」（P28, L23）（小・中学部：P52, L10）（高等部：P55, L10）と「まとまり」と「流れ」の側面から「日課」を整えることが必要とされた。また日常生活の指導の手引きでは「日常生活の指導の時間は、週時程表の中では帯状に設定される」（P5, L6）、高等部の指導の手引きでは「領域・教科を合わせた指導を主軸にし、特に作業学習を中心に位置づけるとすれば、週日課表における作業学習の設定は、例えば、月曜日から金曜日までは午前中2～3時間程度となる」（P18, L1）と、いわゆる帯状の週時程、つまり、「日課」が明示された。さらに、10年版解説から教育的対応として「児童生徒の実態等に即した規則的でまとまりのある学校生活を送れるようにする」（P369, L25）「小学部においては、生活の自然な流れに沿って一連の活動に見通しをもって意欲的に取り組むことができるような活動を組む」（P446, L14）「中学部においては（高等部においては）生徒が活動の見通しをもって意欲的に取り組むように指導する」（P503, L12）（P611, L5）と示された。さらに、21年度版解説から「児童生徒が、自ら見通しをもって行動できるよう、日課や学習環境などを分かりやすくし、規則的でまとまりのある学校生活を送れるようにする」（幼稚園・小学部・中学部編：P244,

Table 1 「日課」に関する学習指導要領解説及び手引きの記述

	解 説	手 引 き
37年版	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 時間毎に変化し、展開させていけば、学校生活は新鮮さもあり、気分転換にもなって適当な学習生活といえるであろうが、精神薄弱者にとっては、まず教科中心の学習というものに抵抗があり、新しい場面への適応性が弱く、次々と展開されていく刺激配置に対処していくことが困難である。(P34, L14)</li> </ul>	
45年版	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活」の内容の取り扱いにおいては、特に、学習活動の実生活化が強調されなければならない。学習活動の実生活化とは、学習活動を児童の目的的な活動で組織し、それを実生活的状況下で展開するということである。(P60, L17)</li> </ul>	
55年版	<ul style="list-style-type: none"> <li>(3) ③ 1 日及び、1 週間の学校生活のまとまりと流れを考慮して、週時程を作成する。(P28, L23)</li> </ul>	<p><b>日常生活の指導の手引き</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の指導の時間は、週時程表の中では帯状に設定される (P5, L6)</li> </ul>
二元年版	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ウ 1 日及び、1 週間の学校生活のまとまりと流れを考慮して、週時程 (日課) を作成する (小学部・中学部編：P52, L10) (高等部：P55, L10)</li> </ul>	<p><b>日常生活の指導の手引き (改訂版)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の指導の時間は、週時程表の中では帯状に設定される (P5, L5)</li> </ul> <p><b>高等部の指導の手引き</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>領域・教科を合わせた指導を軸にし、特に作業学習を中心に位置付けるとすれば、週日課表における作業学習の設定は、例えば、月曜日から金曜日までの午前中 2～3 時間程度となる (P18, L1)</li> </ul>
10年版	<ul style="list-style-type: none"> <li>②児童生徒の実態等に即した規則的でまとまりのある学校生活を送れるようにする。(P369, L25)</li> <li>小学部においては、生活の自然な流れに沿って一連の活動に見通しをもって意欲的に取り組むことができるような活動を組む (P446, L14)</li> <li>中学部においては(高等部においては)生徒が活動の見通しをもって意欲的に取り組むように指導する (P503, L12) (P611, L5)</li> </ul>	
21年版	<ul style="list-style-type: none"> <li>②児童生徒が、自ら見通しをもって行動できるよう、日課や学習環境などを分かりやすくし、規則的でまとまりのある学校生活を送れるようにする。(幼稚園・小学部・中学部編：P244, L29) (高等部編：P411, L35)</li> <li>児童が日課や予定を理解し、見通しをもって主体的に活動することを旨とするのが大切である。(幼稚園・小学部・中学部編：P271, L25)</li> <li>小学部においては、生活の自然な流れに沿って、一連の活動に見通しをもって意欲的に取り組むことができるような活動を組織することが大切であり、そのための環境設定を工夫する必要がある (幼稚園・小学部・中学部編：P314, L1)</li> <li>中学部においては、生徒が活動の見通しをもって意欲的に取り組むよう指導する (幼稚園・小学部・中学部編：P367, L33)</li> <li>高等部においては、生徒が活動の見通しをもって意欲的に取り組むことができるように設定する (高等部編：P515, L9)</li> </ul>	

L29) (高等部編：P 411, L35) と10年版より規則的でまとまりのある学校生活に関してより具体化した内容が加えられた。さらに高等部でも「活動に見通しをもって意欲的に取り組める設定であることが加えられた。

### 予定

各学習指導要領解説、手引きにおける「予定」に関する記述を分析した結果をTable 2 に示した。

昭和45年版解説では「彼らが強い興味関心を

もって真剣に取り組めるような、また彼らの努力によって克服できるような課題を、きめ細かく用意しておくことが必要となってくるであろう」(P27, L5) と「児童生徒が興味関心を強く持って真剣に取り組め、克服できる課題」をきめ細やかに配置 (計画) するとことが重要とされている。

そして、昭和55年版、平成元年版解説にはその計画が「(ア) 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の興味に基づいたものであること」(P69, L11) 「(カ) 各単元における児童生徒の目

Table 2 「予定」に関する学習指導要領解説及び手引きの記述

	解 説	手 引 き
45 年 版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・彼らが強い興味関心をもって真剣に取り組めるような、また彼らの努力によって克服できるような課題を、きめ細かく用意しておくことが必要となってくるであろう。(P27, L5)</li> </ul>	
55 年 版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ア 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の興味に基づいたものであること (P69, L11)</li> <li>・エ 単元は児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元活動に積極的に取り組むものであること。なお、単元は、児童生徒の目的意識や課題意識を育てる活動も含んだものであること (P69, L19)</li> <li>・カ 単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要な十分な活動で組織され、その一連の単元活動は、児童生徒の自然な生活としてまとまりのあるものであること (P70, L1)</li> <li>・キ 単元は、豊かな内容を含む単元活動で組織され、さらに、いろいろな単元を通して、多種多様な経験が児童生徒に与えられるように計画されていること (P70, L4)</li> </ul>	<p><b>生活単元学習指導の手引き</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活単元学習の時間を週時程表の中心に大きく位置づけた場合、一つの単元を設定し、計画することは、ある時期の一定期間を生活を一つのテーマで組織することを意味する (P36, L10)</li> <li>・児童生徒の課題意識を育て、強めるには、児童生徒が単元活動について見通しをもちやすいように、単元の計画段階から工夫する必要がある。(P38, L18)</li> </ul>
元 年 版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(1) 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の興味に基づいたものであること。また、単元は、児童生徒の興味や関心を喚起し、強めるものであること (小学部・中学部編：P160, L6) (高等部：P172, L9)</li> <li>・(4) 単元は、児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元活動に積極的に取り組むものであること (小学部・中学部編：P160, L14) (高等部：P172, L16)</li> <li>・(6) 単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要な十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてまとまりのあるものであること (小学部・中学部編：P160, L22) (高等部：P172, L24)</li> <li>・(7) 単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、さらに、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるように計画されていること (小学部・中学部編：P160, L25) (高等部：P173, L1)</li> </ul>	<p><b>高等部の指導の手引</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、高等部の学校生活では、「させられる生活」を生徒自身の「する生活」にする必要があり、生徒の自立的・主体的な取り組みを容易にする学校生活を計画し、自立的・主体的活動を促す指導を心がけることが大切である。(P10, L26)</li> </ul>
10 年 版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(ア) 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の興味や関心、発達水準等に合ったものであり、個人差の大きい集団にも適合するものである (P374, L19)</li> <li>・(ウ) 単元は、児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動をも含んだものであること (P374, L24)</li> <li>・(オ) 単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要な十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてまとまりのあるものであること (P374, L29)</li> <li>・(カ) 単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるように計画されていること (P374, L32)</li> <li>・日々の生活に結び付けて学習活動が展開されるように指導計画を作成する (P466, L1)</li> </ul>	
21 年 版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(ア) 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものである (幼稚園・小学部・中学部編：P247, L17) (高等部編：P413, L21)</li> <li>・(ウ) 単元は、児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動をも含んだものであること (幼稚園・小学部・中学部編：P247, L23) (高等部編：P413, L25)</li> <li>・(オ) 単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要な十分な活動で組織され、その一連の単元活動は、児童生徒の自然な生活としてまとまりのあるものであること (幼稚園・小学部・中学部編：P247, L28) (高等部編：P413, L29)</li> <li>・(カ) 単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるように計画されていること (幼稚園・小学部・中学部編：P247, L31) (高等部編：P413, L32)</li> <li>・児童が日課や予定を理解し、見通しをもって主体的に活動することを目指すことが大切である (幼稚園・小学部・中学部編：P271, L17)</li> <li>・児童(生徒)の実態等を考慮して、実際の生活に結び付くように指導内容を組織し、指導計画を作成すること (幼稚園・小学部・中学部編：P312, L25, P366, L24) (高等部編：P513, L19)</li> <li>・日々の生活に結び付いた学習活動として展開されるような指導計画を作成する (幼稚園・小学部・中学部編：P313, L17) (幼稚園・小学部・中学部編：P367, L17) (高等部編：P514, L8)</li> <li>・児童(生徒)が見通しをもって、意欲的に学習活動に取り組むことができるようにするためには、児童(生徒)が分かりやすいように活動の予定を示したり、活動を一定期間、繰り返したりすることなどの工夫を行う (幼稚園・小学部・中学部編：P313, L22) (幼稚園・小学部・中学部編：P367, L21) (高等部編：P514, L12)</li> </ul>	

標あるいは課題の成就に必要なして十分な活動で組織され、その一連の単元活動は、児童生徒の自然な生活としてまとまりのあるものであること」(P70, L1)「(キ)単元は、豊かな内容を含む単元活動で組織され、いろいろな単元を通して、多種多様な経験が児童生徒に当てられるように計画されていること」(P70, L4)と、「実際の生活、児童生徒の興味・関心」から発展した「目標あるいは課題の成就に必要なして十分な活動」からなる「自然なまとまりのある生活」の中で、「多種多様な経験」をできるようにとされた。

また、生活単元学習の手引きでは「生活単元学習の時間を週時程表の中心に大きく位置づけた場合、一つの単元を設定し、計画することは、ある時期の一定期間を生活を一つのテーマで組織することを意味する」(P36, L10)と、単元を設定し計画する際には、一定期間を一つのテーマで組織することが重要であるとされた。

さらに高等部の指導の手引きでは「特に高等部の学校生活では、「させられる生活」を生徒自身の「する生活」にする必要があり、生徒の自立的・主体的な取り組みを容易にする学校生活を計画し、自立的・主体的活動を促す指導を心がけることが大切である」(P10, L26)と計画を行う際に、生徒の自立・主体的な取り組みを促す「する生活」になるよう配慮することが加えられた。

さらに、平成21年版解説では「(ア)単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたものであり、個人差の大きい集団にも適合する物である」(幼稚園・小学部・中学部編：P247, L17) (高等部編：P413, L21)「(ウ)児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元活動に積極的に取り組むもの」(幼稚園・小学部・中学部編：P247, L23) (高等部編：P413, L25)「(オ)各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元活動は、児童生徒の自然な生活としてまとまりのあるものであること」(幼稚園・小学部・中学部編：P247, L28) (高等部編：P413, L29)「児童が日課や予定を理解し、見通しをもって主

体的に活動することを目指すことが大切である」(小学部・中学部編：P27LL17) (高等部編：P513, L19)「日々の生活に結び付いた学習活動として展開されるような指導計画を作成する」(幼稚園・小学部・中学部編：P313, L17) (幼稚園・小学部・中学部編：P367, L17) (高等部編：P514, L8)「児童(生徒)が見通しをもって、意欲的に学習活動に取り組むことができるようにするためには、児童(生徒)が分かりやすいように活動の予定を示したり、活動を一定期間、繰り返したりすることなどの工夫を行う」(幼稚園・小学部・中学部編：P313, L22) (幼稚園・小学部・中学部編：P367, L21) (高等部編：P514, L12)」とされ「日々の生活に結び付いた」計画とし、「活動を一定期間繰り返す」ことにすることが小・中・高等部のいずれにおいても加えられた。

## 結 語

昭和37年度から平成21年度までに告示された特別支援学校(養護学校(精神薄弱))学習指導要領解説及び各手引にて、知的障害教育における「日課」ならびに「予定」の取り扱いがどのように示されてきたのかを分析した。このことから明らかになった知的障害教育の教育課程編成における「日課」、「予定」の指針は次のとおりである。

### 日課

知的障害特別支援学校の「日課」は「活動に見通しをもって意欲的に取り組める」ように「まとまり」と「流れ」を考慮して週日課である帯状の日課、すなわち、「規則的でまとまりのある学校生活」であることが戦後から一貫して示されている。また、日課に関する内容の取り扱いが平成10年版特別支援学校学習指導要領から平成21年版特別支援学校学習指導要領に変わって新しく内容が加えられていることから、各学校においてこれまで以上に「日課」を整えることがより重要となる。

### 予定

知的障害特別支援学校の「予定」は「実際の

生活から発展した、興味関心を持って真剣に取り組め、達成できる多種多様な経験」からなる「一つのテーマがある自然な生活を、一定期間、繰り返す」ように整えていくことが原則となっている。「予定」に関しても、平成21年版特別支援学校学習指導要領学習指導要領から新しく内容が加えられており、知的障害のある幼児児童生徒の日々の生活（予定）をこれまで以上に整えることが肝要となる。

## 文献

- 文部省 (1970)：養護学校小学部・中学部学習指導要領精神薄弱教育編解説。教育図書。
- 文部省 (1974)：養護学校（精神薄弱教育）学習指導要領解説。東山書房。
- 文部省 (1983)：特殊教育諸学校学習指導要領解説－養護学校（精神薄弱教育）編－。東山書房。
- 文部省 (1985)：作業学習指導の手引。ぎょうせい。
- 文部省 (1986)：生活単元学習の手引。慶應通信。
- 文部省 (1987)：日常生活の指導の手引。慶應通信。
- 文部省 (1991)：特殊教育諸学校小学部・中学部学習指導要領解説－養護学校（精神薄弱教育）編－。東洋館。
- 文部省 (1992)：特殊教育諸学校高等部学習指導要領解説－養護学校（精神薄弱教育）編－。海文堂。
- 文部省 (1993)：遊びの指導の手引。慶應通信。
- 文部省 (1994)：日常生活の指導の手引（改訂版）。慶應通信。
- 文部省 (1995)：作業学習指導の手引（改訂版）。東洋館。
- 文部省 (1996)：精神薄弱養護学校高等部の指導の手引。海文堂。
- 文部省 (2000)：盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領（平成11年3月）解説－各教科、道徳及び特別活動編－。東洋館。
- 文部科学省 (2009)：特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）。教育出版。
- 文部科学省 (2009)：特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）。海文堂。
- 全国特別支援学校知的障害教育校長会 (2010)：内閣府第9回障がい者制度改革推進会議資料3教育関係団体提出意見書等。